

米づくり情報 第8号

令和2年8月20日

平坦部(佐賀県農業試験研究センター)

本年産水稻の生育状況(8月20日)

移植日	項目		草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	概況
	品種	年次				
6月18日	夢しずく	本年	出穂期:8月20日		14.0 (止葉葉位)	【気象】 :8月13日~19日の気象を 平年値と比較すると、気温は 2.6℃高く、日照時間は173%と長 く、降水量は0%と少なかった。 【生育】 :平年と比較すると、 【草丈】 「ヒノヒカリ」はやや低い。「さがび より」はやや高い。「ヒヨクモチ」は 平年並み。 【茎数】 「ヒノヒカリ」、「さがびより」はやや 少ない。「ヒヨクモチ」は平年並 み。 【葉齢】 「ヒノヒカリ」はやや遅れている。 「さがびより」はやや進んでいる。 「ヒヨクモチ」は平年並み。
		平年	出穂期:8月17日		13.6 (止葉葉位)	
平年比(差)		平年より3日遅い		+0.4		
ヒノヒカリ	本年	90.0	441	13.9		
	平年	92.6	461	14.2		
平年比(差)		97	96	-0.3		
6月19日	さがびより	本年	88.5	433	14.8	
		平年	84.8	454	14.5	
平年比(差)		104	95	+0.3		
ヒヨクモチ	本年	77.5	573	14.7		
	平年	76.8	569	14.9		
平年比(差)		101	101	-0.2		
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ○ 水管理については、稲が最も水を必要とする時期(穂ばらみ期~穂揃期)を迎えていることから、深水管理を行う。 ○ 8月に入ってから高温で推移しているため紋枯病の発生に注意し、海外飛来性害虫と合わせて的確な防除を行う。すでに葉いもちの発生がみられるほ場では、すぐに防除を行う。 ○ 斑点米カメムシ類の発生がやや多いため、穂揃い期と乳熟期に2回防除を行う。 					

注)・「夢しずく」、「ヒノヒカリ」は、6月18日移植の稚苗(播種期5/25、播種量 湿粳 180g/箱)
 「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月19日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿粳 180g/箱)
 ・栽植密度:「夢しずく」は、条間30cm×株間17cm、19.6株/m²(65株/坪)
 「さがびより」は、条間30cm×株間20cm、16.7株/m²(55株/坪)
 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間30cm×株間15cm、22.2株/m²(73株/坪)
 ・栽培管理:施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。
 ・概況欄の生育の平年値との比較については、以下のように定義している。
 低い(少ない、遅れている):94以下、やや低い(やや少ない、やや遅れている):95~98、平年並み:99~101、やや高い(やや多い、やや進んでいる):102~105、高い(多い、進んでいる):106以上
 ※平年値は、過去7カ年(平成25~令和元年)の数値の最高と最低を除いた5カ年の平均値。

【窒素の時期別施用量(N kg/10a)】

品種	基肥	中追	穂肥Ⅰ	穂肥Ⅱ	実肥
夢しずく	3.0(6/16)	0.0	2.0(8/3)	—	—
ヒノヒカリ	4.0(6/16)	2.0(7/10)	3.0(8/11)	—	—
さがびより	5.0(6/17)	0.0	2.0(8/17)	—	—
ヒヨクモチ	4.0(6/17)	3.0(7/13)	4.0(8/18)	1.5	1.5

※カッコ内の日付は農試作況ほ場における施用日

【幼穂形成始期と出穂期】

品 種	幼穂形成始期		出穂期	
	本 年(平年差)	平 年	本 年	平 年
夢しずく	7月31日(+3日)	7月28日	8月20日(+3日)	8月17日
ヒノヒカリ	8月5日(0日)	8月5日	未	8月27日
さがびより	8月10日(+1日)	8月9日	未	9月1日
ヒヨクモチ	8月15日(+1日)	8月14日	未	9月7日

※8月20日現在

令和2年産 稲作期間気象図
アメダス観測値(佐賀)

農業試験研究センター
作物栽培研究担当

